



千葉銀行Webサイト
(IRライブラリ)



2024年3月期 第3四半期 決算の概要



2024年2月2日

2024年3月期 第3四半期 決算

業績概要	3
業績概要（連結）	4
資金利益	5
貸出金平残・利回り	6
貸出金未残・預金未残	7
有価証券①②	8-9
役務取引①②③	10-12
与信関係費用・金融再生法開示債権	13
経費	14
自己資本比率・ROE・株主還元	15
DX	16

補足資料

外債ポートフォリオの改善	18
円金利上昇の貸出金利息・預金利息への影響	19

パーパス
一人ひとりの思いを、
もっと実現できる
地域社会にする

ビジョン
地域に寄り添う
エンゲージメント
バンクグループ

第15次
中期経営計画

エンゲージメント
バンクグループ
～フェーズ1～

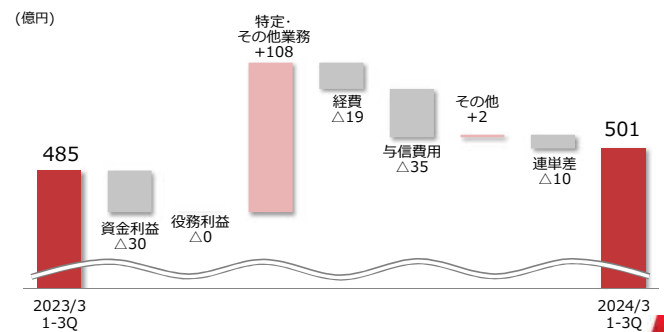
計画期間
2023年4月～2026年3月



単体	2023/3		2024/3		2024/3	
	(億円)	1-3Q	1-3Q	前年同期比	計画	進捗率
業務粗利益		1,180	1,259	78	1,663	75.7%
資金利益		1,075	1,045	△30	1,359	
役員取引等利益		208	208	△0	298	
特定取引利益		10	9	△0	21	
その他業務利益		△114	△5	109	△15	
うち債券関係損益		△160	△49	110	△49	
経費(△)		613	633	19	850	74.4%
業務純益(一般貸引繰入前)		566	626	59	812	77.0%
コア業務純益		726	675	△51	862	78.3%
除く投資信託解約損益		669	652	△16	833	78.3%
一般貸倒引当金繰入額(△)		-	-	-	△5	
業務純益		566	626	59	817	76.5%
臨時損益		101	83	△18	12	
うち不良債権処理額(△)		△33	1	35	75	
うち貸倒引当金戻入益		20	16	△3	-	
うち株式等関係損益		62	86	24	87	
経常利益		668	709	40	830	85.5%
特別損益		△1	△1	△0	△2	
四半期純利益		480	507	26	590	85.9%
与信関係費用(△)		△33	1	35	70	1.9%
連結						
連結経常利益		698	725	26	880	82.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益		485	501	16	610	82.1%
(参考)						
連結業務純益(一般貸引繰入前)		624	684	59	921	74.2%

- ◆ 以下の変動要因がある中で、トップラインは前年同期比+78億円と好調
 - ・ 資金利益は、国内の預貸金利息が同+28億円と好調な一方で、投信解約益が国内・国際合計で同△35億円となり、全体では同△30億円の減収
 - ・ 債券関係損益は前年同期に実施した外債売却損失計上の影響等が剥落したことで同+110億円の増収
- ◆ 経費は、人的資本投資や戦略的投資の実施により同+19億円増加したものの計画内であり、OHRは48%台と高い効率性を維持
- ◆ 与信関係費用は1億円の計上に留まり、引き続き低位
- ◆ 四半期純利益は、通期計画に対する進捗率が単体85.9%・連結82.1%と順調に推移

親会社株主に帰属する四半期純利益の増減要因(単体+連単差)



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 淡路でございます。日頃より千葉銀行をカバーしていただき誠にありがとうございます。
- では、資料に基づき説明いたします。まず3ページをご覧ください。初めに業績の概要です。
- 第3四半期は、投信解約益の計上を抑制したことなどから資金利益が前年同期に比べて30億円減少しましたが、前年に実施した外債損切りの影響が剥落したことにより、債券関係損益が110億円改善し、トップラインの業務粗利益は78億円増加し、1,259億円となり、第3四半期として2年ぶりに過去最高を更新しました。
- 経費は、19億円増加しましたが、人的資本投資や戦略的投資によるものであり、計画通りです。
- 与信関係費用は、1億円の計上と引き続き低位に留まっています。
- これらの結果、四半期純利益は単体・連結ともに過去最高を更新しています。
- また、通期計画に対する進捗率は単体が85.9%、連結では82.1%といずれも順調に推移しています。
- 4ページをご覧ください。

連結	(億円)	2023/3	2024/3	前年同期比
		1-3Q	1-3Q	
連結粗利益		1,236	1,305	69
資金利益		1,037	1,005	△ 31
役務取引等利益		297	292	△ 5
特定取引利益		16	13	△ 3
その他業務利益		△ 114	△ 5	109
営業経費 (△)		660	685	24
与信関係費用 (△)		△ 39	9	49
一般貸倒引当金繰入額 (△)		-	-	-
不良債権処理額 (△)		△ 39	9	49
株式等関係損益		66	96	30
持分法投資損益		0	1	1
その他		17	16	△ 0
経常利益		698	725	26
特別損益		△ 1	△ 0	0
税金等調整前四半期純利益		697	725	27
法人税等合計 (△)		212	223	11
四半期純利益		485	501	16
非支配株主に帰属する四半期純利益		-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		485	501	16
(参考)				
連結業務純益 (一般貸引繰入前)		624	684	59

子会社の状況

【連結子会社】

※連結決算用に組替後のPL表示

(億円)

会社名	出資割合 (間接含む)	利益項目 (子会社間配当控除後)	2023/3 1-3Q	2024/3 1-3Q	前年同期比
ちばぎん証券	100%	経常利益	0	△ 3	△ 4
		四半期純利益	0	△ 3	△ 4
ちばぎんリース	100%	経常利益	8	5	△ 2
		四半期純利益	5	3	△ 1
ちばぎん保証	100%	経常利益	49	39	△ 10
		四半期純利益	32	25	△ 7
ちばぎん ジェーシーピーカード	100%	経常利益	8	12	3
		四半期純利益	5	8	2
その他5社 合計	100%	経常利益	5	4	△ 1
		四半期純利益	3	3	0
合計		経常利益	73	58	△ 14
		四半期純利益	48	37	△ 11

【持分法子会社】

6社 合計	持分法に応じた 四半期純利益	0	1	1
-------	-------------------	---	---	---

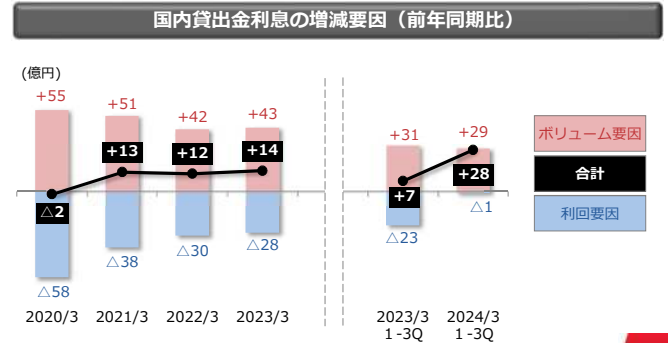
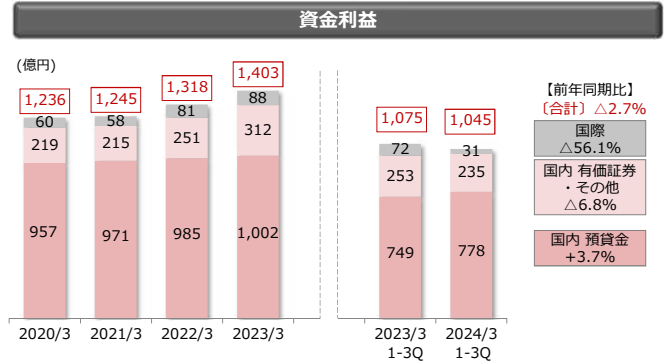
親会社への配当(△)	44	44	0
連単差 ※	4	△ 5	△ 10

※未実現利益等の調整後

- 右側の子会社の状況をご覧ください。
- ちばぎん証券は、お客さまのアフターフォローを中心に活動しており、3億円の赤字となっています。
- ちばぎんリースやちばぎん保証は、前年が戻入であった与信費用が繰入となったことで、減益決算となっており、これらの結果、一番下段に記載している連単差は10億円縮小しています。
- 5ページをご覧ください。

(億円)	2023/3	2024/3	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
資金利益	1,075	1,045	△ 30
国内資金利益	1,003	1,013	10
預貸金利息	749	778	28
貸出金	752	780	28
預金+NCD (△)	2	1	△ 0
有価証券利息配当金	231	222	△ 8
債券	30	32	1
株式配当金	109	107	△ 2
投資事業組合	6	8	1
投信	84	74	△ 9
うち解約益	40	22	△ 17
その他 (市場運用調達等)	22	12	△ 9
国際資金利益	72	31	△ 40
貸出金	85	187	102
外国証券	142	191	49
外国証券	102	176	74
外貨ファンド	20	11	△ 9
投信	19	3	△ 15
うち解約益	17	0	△ 17
その他 (調達、市場運用等)	△ 154	△ 347	△ 192
資金利益 (除く投信解約益)	1,018	1,023	5
投信解約益	57	22	△ 35

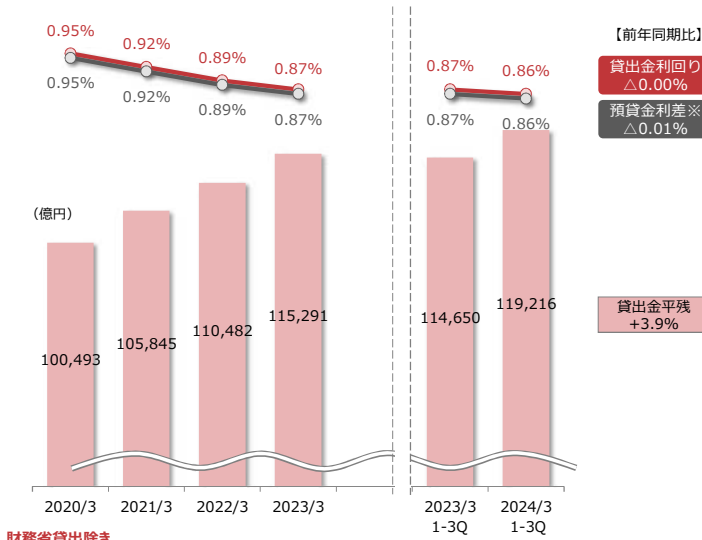
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.



- 資金利益です。全体で30億円減少しました。
- 内訳は、まず国内部門では、預貸金利息が前年同期に比べて28億円の増加と好調でした。
- 右下のグラフの通り、利回り要因によるマイナスがほぼ無くなり、ボリューム要因による増加がそのまま資金利益の増収になっています。
- 一方、国際部門は、前年は外債損切りを補完するために投信解約益を計上しましたが今年度は大きく計上しませんでした。また、外貨ファンドの収益が減少したこと、海外金利が上昇したことなどの影響で、40億円の減収となりました。
- 次のページを飛ばして、7ページをご覧ください。

国内業務部門 貸出金平残・利回り

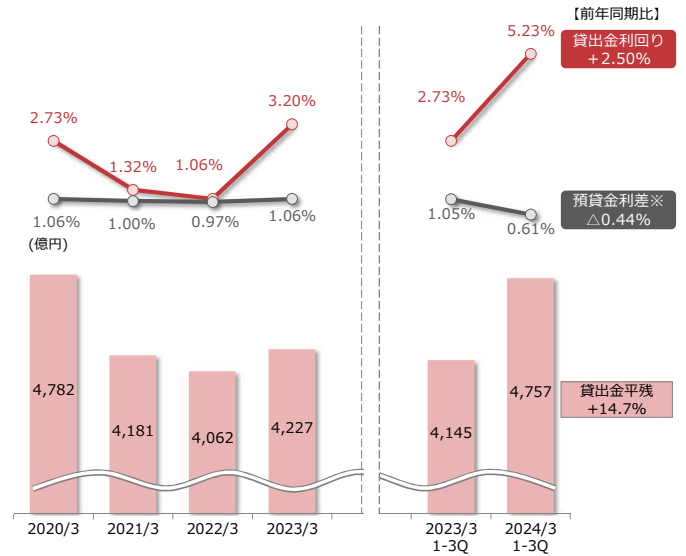
※①貸出金利回り・②預金利回り(NCD含む)ともに小数点第2位未満切捨て、
 預貸金利差は①②ともに小数点第2位未満切捨て後の数値を差引し算出



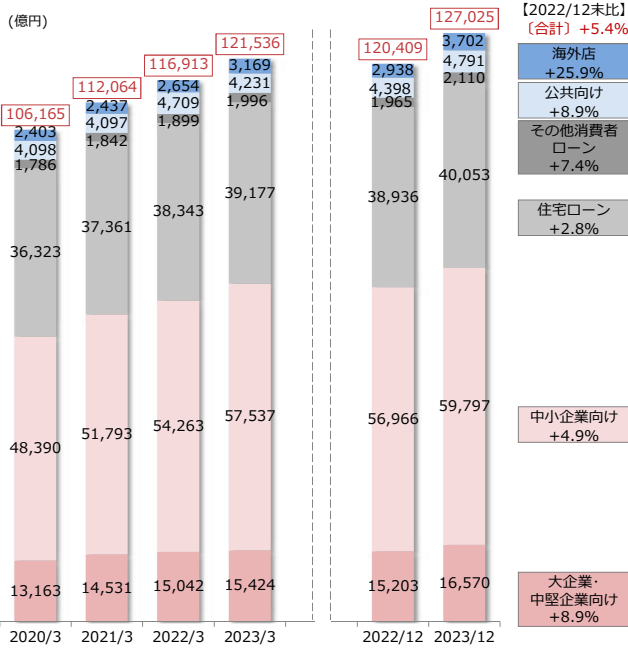
財務省貸出除き

貸出金平残	98,919	103,915	108,440	112,761	112,339	117,196
貸出金利回り	0.97%	0.94%	0.91%	0.89%	0.88%	0.88%

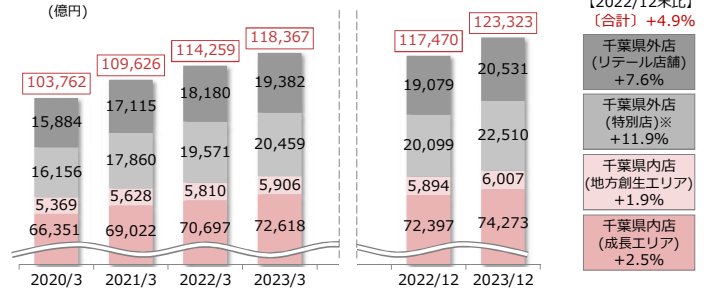
国際業務部門 貸出金平残・利回り



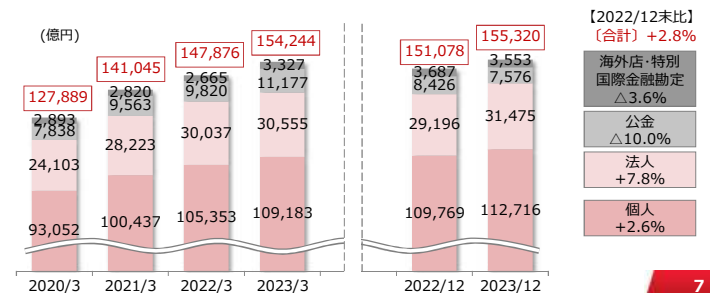
貸出金末残



国内 貸出金末残 (エリア別)



預金末残

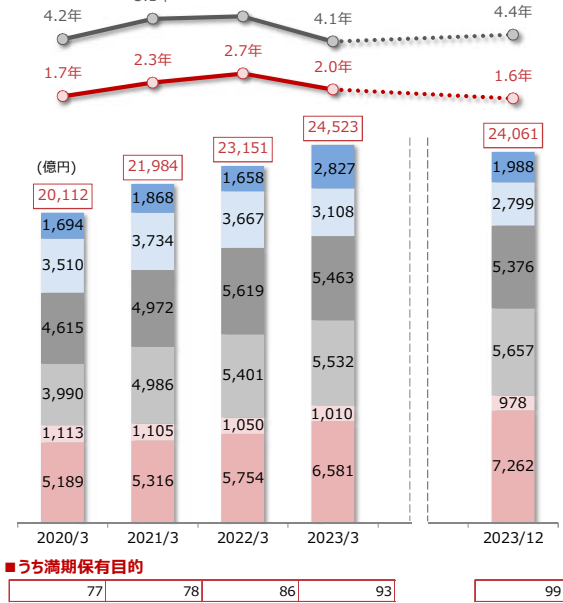


Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 左側のグラフをご覧ください。貸出金は、前年同期末に比べて6,616億円増加し、12兆7千億円となりました。増加率は5.4%です。
- 中小企業向け・大企業向けともに貸出が順調に増加したほか、住宅ローンや消費者ローンも増加しています。
- 右上のグラフでお示したエリア別でみると、県外で大きく伸ばしています。
- 右下のグラフの預金でも、個人・法人預金ともに順調に増加しており、4,242億円増加し、15兆5千億円となりました。増加率は2.8%です。
- 8ページをご覧ください。

有価証券末残※1・平均残存期間※2

※1 末残は評価損益を除くベース
 ※2 平均残存期間はアセットスワップ考慮後のベース



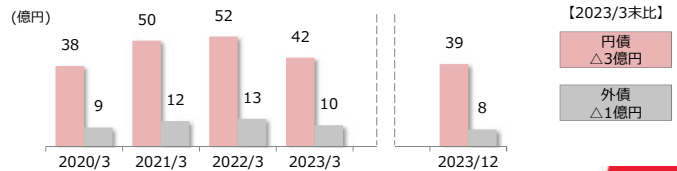
【2023/3末比】

- 円債 平均残存期間 +0.2年
- 外債 平均残存期間 △0.4年
- 〔合計〕 △1.8%
- 国債 △29.6%
- 地方債 △9.9%
- 社債等 △1.5%
- 投資等 +2.2%
- 株式 △3.2%
- 外貨建有価証券 +10.3%

有価証券関連損益

(億円)	2023/3 1-3Q	2024/3 1-3Q	前年同期比
有価証券利息	373	414	40
債券	132	208	76
国内業務部門	30	32	1
国際業務部門	102	176	74
株式	109	107	△2
投資等	130	97	△33
うち投信解約損益	57	22	△35
国債等債券損益	△160	△49	110
うち売却益	22	9	△13
うち売却損 (△)	182	56	△126
うち償却 (△)	0	2	2
株式等関係損益	62	86	24
うち売却益	63	95	32
うち売却損 (△)	0	9	8
うち償却 (△)	0	0	△0

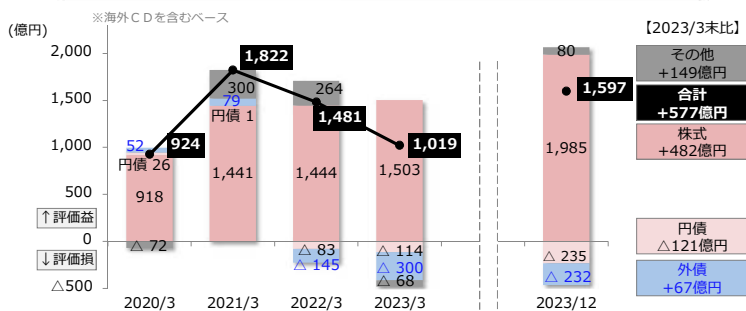
10BPV



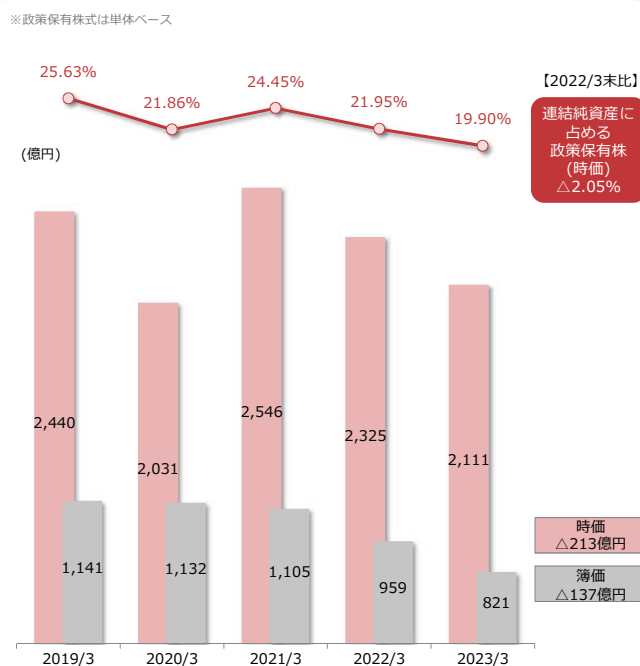
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 左側のグラフ、有価証券は、引き続きリスクをおさえた運用を行っています。残高は2兆4,000億円ございます。
- また、右側、有価証券関連損益では、政策投資株式を売却したことで、株式等の売却益が前年同期に比べて32億円増加しました。
- 9ページをご覧ください。

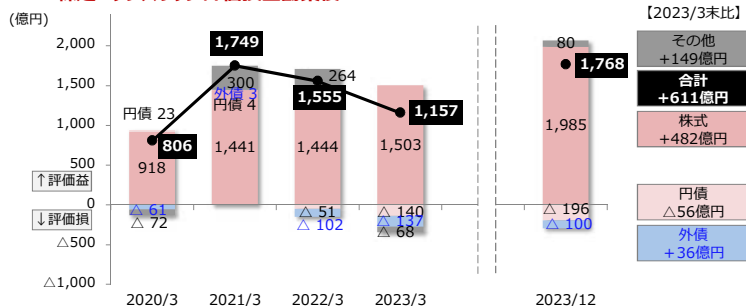
その他有価証券評価損益



連結純資産に占める政策保有株式



■繰延ヘッジスワップ評価損益勘案後



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

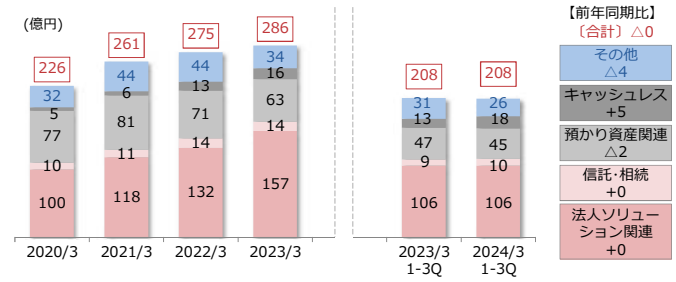
- 左側、その他有価証券の評価損益は、株高により大きく改善しました。
- 下のグラフでお示しした、金利スワップによるヘッジ勘案後の評価損益は、3月末に比べて円債が56億円悪化しましたが、外債は36億円改善しており、評価損益の合計では611億円改善しました。
- 10ページをご覧ください。

(億円)	2023/3	2024/3	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
役務取引等利益	208	208	△ 0
役務取引等収益	354	376	22
役務取引等費用 (△)	146	168	22
<主な内訳>			
うち預かり資産関連	47	45	△ 2
うち投信手数料 (信託報酬)	13	13	0
うち投信手数料 (販売手数料)	6	5	△ 1
うち年金・一時払終身保険手数料	14	11	△ 3
うち平準払保険手数料	8	13	4
うち金融商品仲介手数料	2	1	△ 1
うち法人ソリューション関連	106	106	0
うち私募債	2	2	△ 0
うちシ・ローン等	83	85	2
うちアドバイザリー手数料	3	3	△ 0
うちM&A手数料	4	1	△ 3
うち経営承継アドバイザリー手数料	2	2	0
うちビジネスマッチング手数料	9	11	1
うち信託・相続関連	9	10	0
うちキャッシュレス関連	13	18	5
うち為替関連	94	96	2
うちローン支払保険料・保証料 (△)	92	98	6

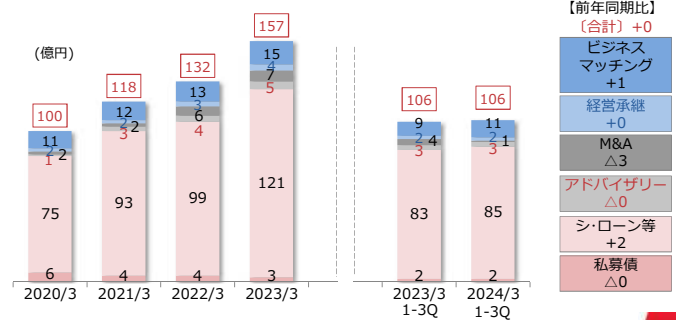
※ 2024/3月期より、経営承継アドバイザリー業務は信託・相続関連から法人ソリューション関連へ区分を変更 (過去に遡って変更)

Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

役務取引等利益

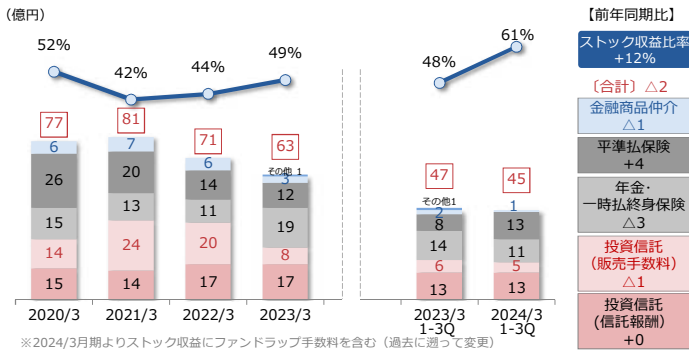


法人ソリューション関連収益

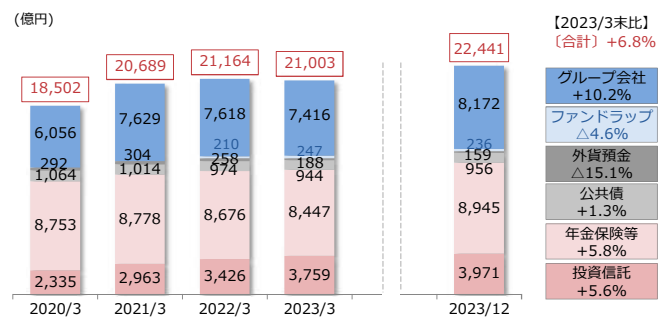


- 左側の表、役務取引等利益は、全体では前年同期に比べて横ばいとなりました。
- 中段の法人ソリューション関連は、前年の第3四半期に取組んだ大型の案件が今年度ない中でも、前年同様に進捗しています。足元でも多くのパイプラインを抱えていることから、通期では順調に増益となると見込んでいます。
- 11ページをご覧ください。

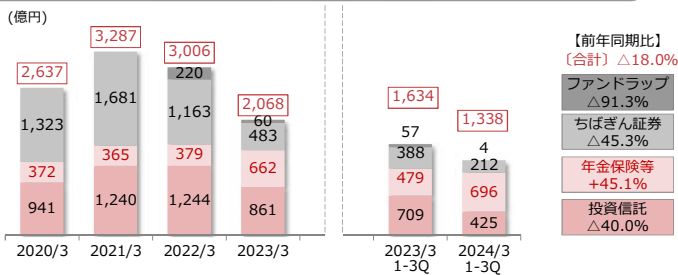
預かり資産関連収益



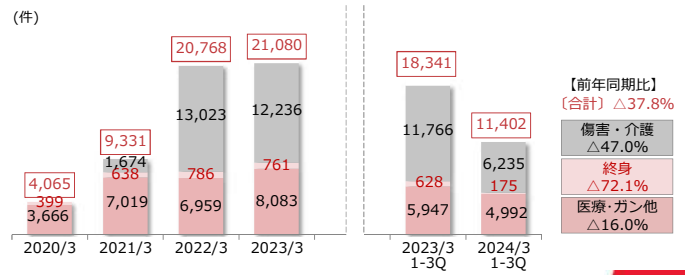
預かり資産残高 (グループ合計)



預かり資産販売額 (グループ合計)



保障性保険 取扱件数



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

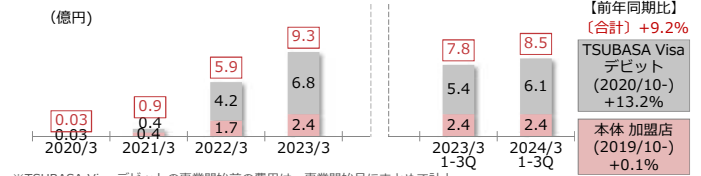
※受付ベースの件数

- 左側、預かり資産関連収益は、2億円の減少となっていますが、内訳では、折れ線グラフのストック収益の比率が前年の48%から61%に上昇しています。
- これは、ストック収益重視へと方針を転換したことによるものです。
- その下、グループ全体の預かり資産残高は3月末に比べて6.8%増加しました。
- 収益目標を撤廃し、活動量を重視した営業活動を徹底したことで、1日あたりの顧客面談数は上期の約2倍となり、お客さまとの接点が確実に増加しています。今後も、パーパスやビジョンをすべての判断軸とし、お客さま本位の営業姿勢を徹底してまいります。
- 12ページをご覧ください。

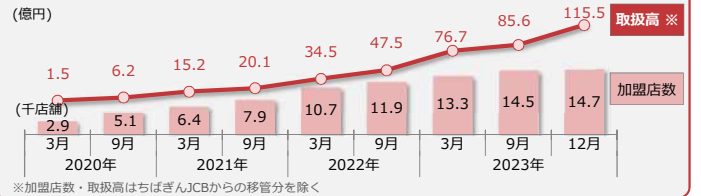
キャッシュレス事業収支

		2023/3	2024/3	前年同期比
		1-3Q	1-3Q	
		(億円)		
本体事業 合計	利益	13.4	18.6	5.1
	収益	34.1	50.5	16.4
	費用(△)	20.6	31.9	11.3
本体 新規事業 合計	利益	7.8	8.5	0.7
	収益	17.8	26.8	9.0
	費用(△)	9.9	18.3	8.3
本体 加盟店	利益	2.4	2.4	0.0
	収益	11.2	19.3	8.0
	費用(△)	8.8	16.8	8.0
TSUBASA Visa デビット	利益	5.4	6.1	0.7
	収益	6.5	7.5	1.0
本体 既存カード 事業	費用(△)	1.1	1.4	0.3
	利益	20.4	5.6	20.6
	収益	38.4	16.3	39.5
2023年10月に本体移管されたちばぎんJCBの収益・費用を遡及計上した場合の数値	費用(△)	18.0	10.6	18.9
	利益	9.8	6.1	△ 3.7
	収益	39.2	33.2	△ 5.9
(参考)	費用(△)	29.3	27.0	△ 2.2
	利益	23.3	24.7	1.4
	収益	73.3	83.7	10.4
グループ 合計	費用(△)	50.0	59.0	9.0
	取扱高(累計)	4,684	5,520	835

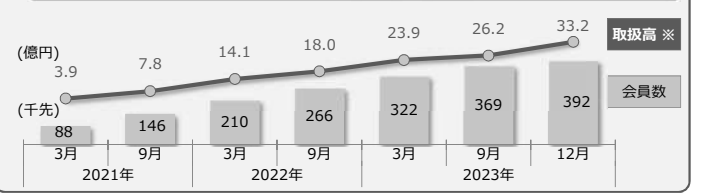
本体新規事業 利益推移



本体加盟店事業 加盟店数・取扱高



TSUBASA Visa デビット 会員数・取扱高



※関連会社の費用には、人件費等の営業費用も含めて記載
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

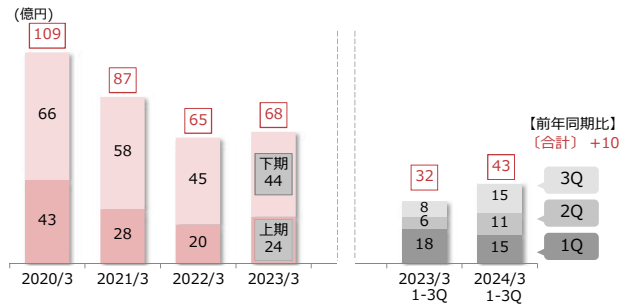
※取扱高：該当月における1ヵ月間の決済額

- キャッシュレス事業は、右側中段のグラフ、加盟店数、会員数とも着実に増加しており、取扱高も拡大しています。
- 10月にグループ会社のちばぎんJCBの会員・加盟店を本体に移管しており、本体事業の利益は5.1億円増益、グループ合計の利益は1.4億円増益となりました。
- 13ページをご覧ください。

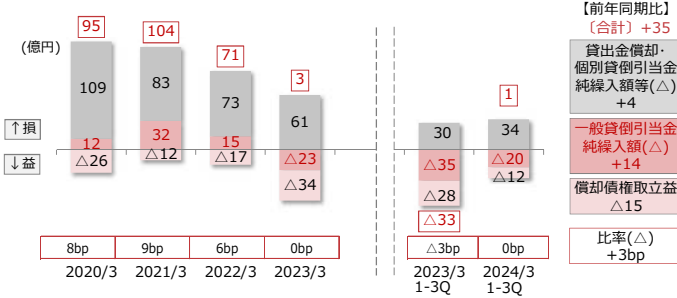
与信関係費用

(億円)	2023/3		2024/3		前年同期比
	1-3Q	1-3Q	1-3Q	1-3Q	
与信関係費用 (△)	△ 33	1	35	1	35
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	△ 35	△ 20	20	14	14
不良債権処理額 (△)	1	22	20		20
貸出金償却・個別貸倒引当金純繰入額等 (△)	30	34	4		4
うち個別貸倒引当金純繰入額 (△)	14	3	△ 10		△ 10
うち新規発生 (△)	32	43	10		10
うち既先 (△)	4	2	△ 2		△ 2
うち回収等	7	10	2		2
償却債権取立益	28	12	△ 15		△ 15
与信費用比率 (△)	△3bp	0bp	3bp		3bp

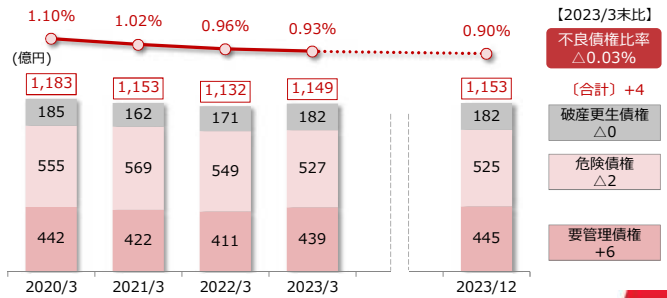
不良債権 新規発生



与信関係費用(△) 推移



金融再生法開示債権・不良債権比率



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 与信関係費用です。前年に貸倒引当金の戻入を大きく計上した影響で、前年同期に比べて35億円増加となりましたが、与信関係費用全体の計上額は1億円に留まっており、通期計画の70億円を大きく下回っています。
- 通期で新規発生は100億円を計画していますが、この9ヶ月間で43億円の計上に留まっているため、与信関係費用は通期計画に対してバッファがあると考えております。第4四半期に予防的・前倒しの引当を行うことを検討致します。
- また、右下、不良債権比率は0.90%と低位であり、地銀トップレベルの健全性を維持しています。
- 14ページをご覧ください。

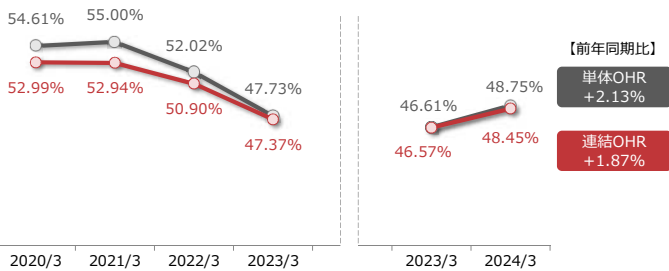
経費・OHR

単体	2023/3		2024/3	
	(億円)	1-3Q	1-3Q	前年同期比
経費		613	633	19
人件費		296	303	6
物件費		269	281	11
税金		47	48	0
OHR		46.61%	48.75%	2.13%

連結				
		2023/3	2024/3	前年同期比
OHR		46.57%	48.45%	1.87%

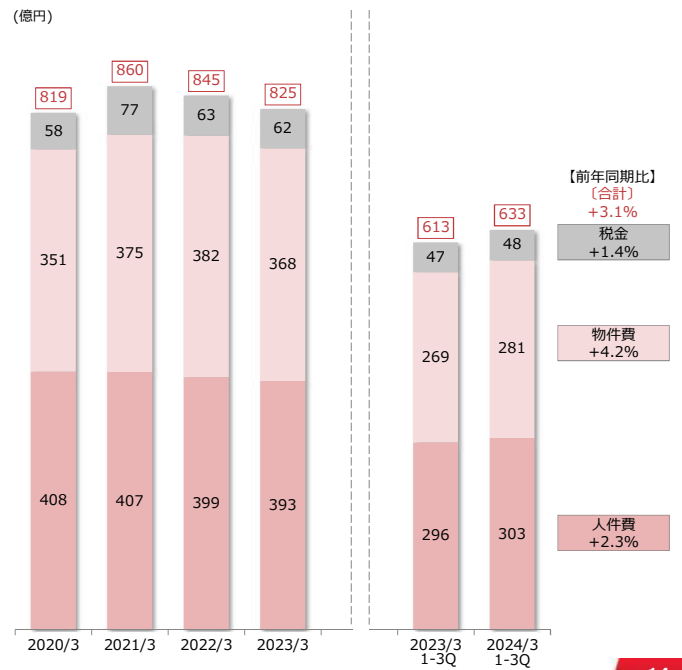
※ OHR：経費÷（業務純益－債券関係損益等＋一般貸倒引当金純繰入額＋経費）

OHR推移

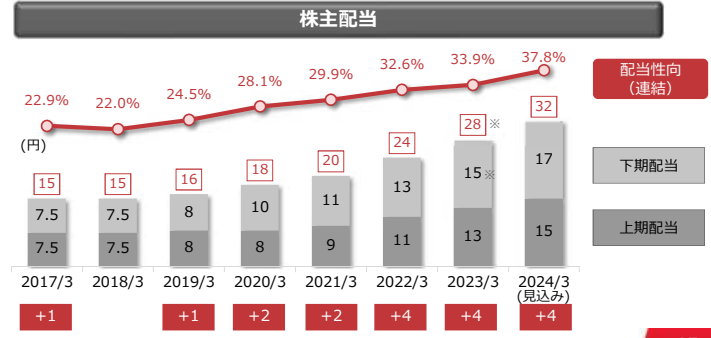
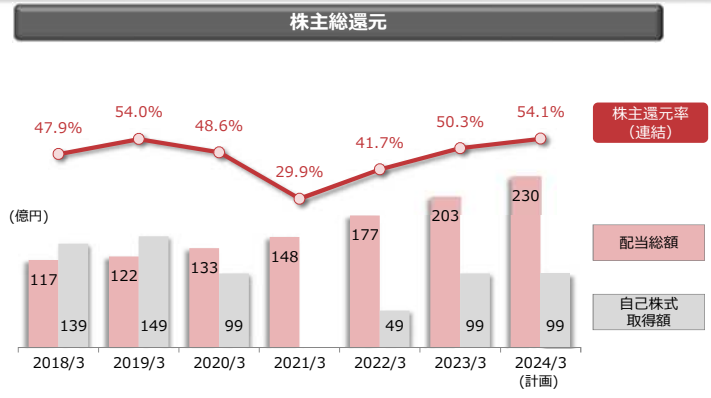
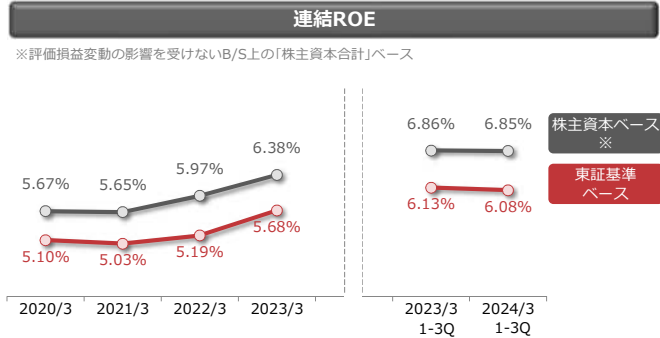
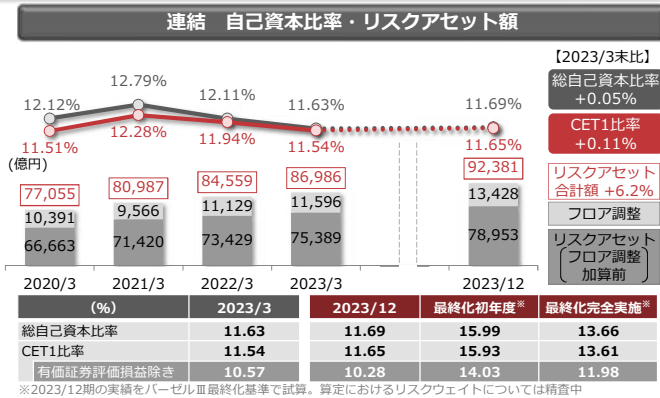


Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

単体 経費推移



- 経費です。中計で掲げた戦略的投資や、人的資本投資を強化したこと等により、物件費・人件費とも増加し、全体で19億円の増加となりました。
- 年度計画850億円に対して進捗率は74.4%で、計画通りの進捗です。
- OHRは50%を下回る低水準を維持しております。戦略的投資により今後のトップラインの増強や経費の削減に効果が表れることで、中計最終年度には目標として掲げている45%程度を達成する見通しです。
- 15ページをご覧ください。



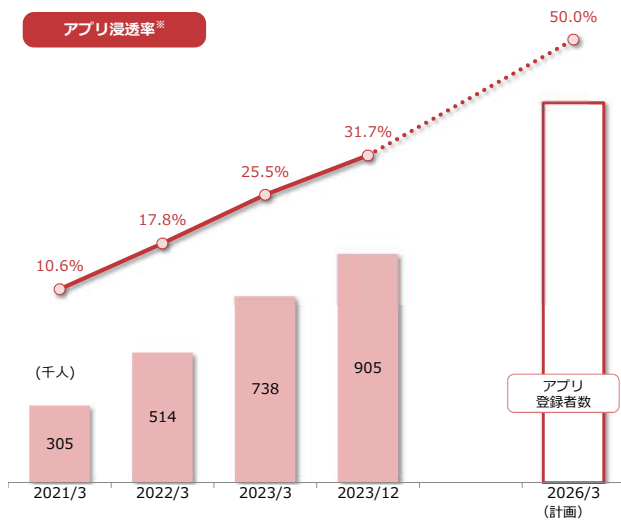
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 先週の第3四半期の決算発表に合わせて2円の増配を発表しました。右下に記載の通り、これで通期の配当額は32円となり、5年前の2019年3月期と比べて2倍まで拡大しました。
- 配当性向は37.8%まで上昇し、長期的に目指している40%に近づいています。
- また、左上に記載の通り、有価証券評価差額金の改善から、CET1比率は11.65%に上昇しました。
- この数値を有価証券評価差額金を除いたバーゼルⅢ最終化・完全実施ベースの水準で試算すると、11.98%となります。バーゼルⅢ最終化の計算を精緻に行ったことで9月末時点の試算と比べて値が上昇し、ターゲットとする10.5%から11.5%のレンジを上回っております。増加分は、今後、インオーガニック投資や株主還元の更なる強化などを検討してまいります。
- 続いて、足元のトピックについてお話いたします。18ページをご覧ください。

アプリ登録者数・浸透率

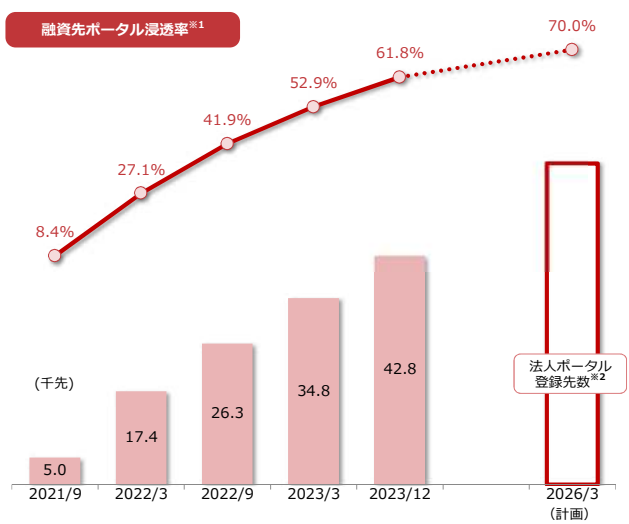
ポータル登録先数・融資先浸透率

アプリ浸透率*



※ちばぎんアプリ登録者数÷個人の稼働顧客先数

融資先ポータル浸透率*1



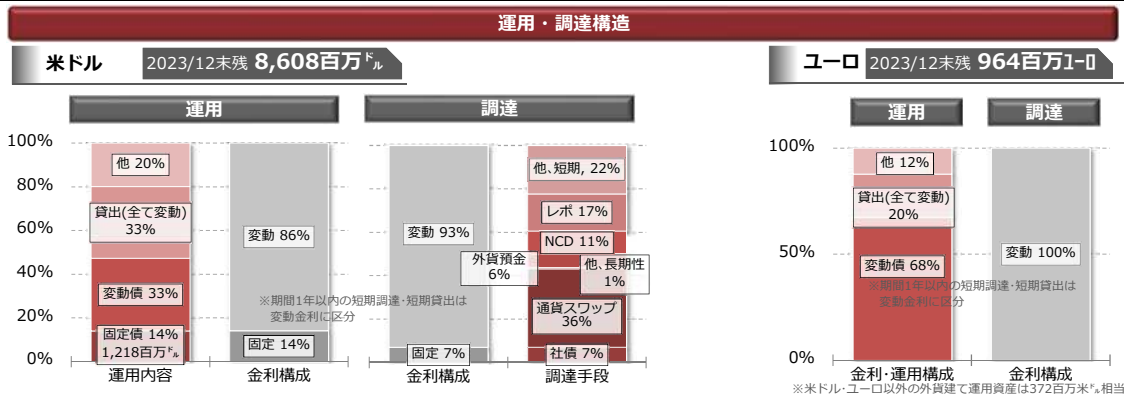
※1 融資先の法人ポータル登録先数÷法人融資先数

※2 法人ポータルへのログイン履歴がない先を除いた件数を記載

補足資料



計画通り低利回り固定債を売却し、外債全体の利鞘はプラス圏に



外債ポートフォリオ変化

米ドル建固定債 2023年9末	3Qの外債(固定債)オペレーション	米ドル建固定債 2023年12末
残高(億円) 1,864	購入 0	残高(億円) 1,655
利回り(%) 3%台後半	売却・償還 ▲112	利回り(%) 3%台後半
調達コスト(%) 5%程度	利回り(%) -	調達コスト(%) 5%台半ば
	売却損(億円) ▲15	
	為替要因 -	
	購入 0	
	売却 ▲186	
	利回り(%) 0%台半ば	
	売却損(億円) ▲17	

外債合算 2023年9末

残高(億円) 7,394

利鞘(%) ▲0%程度

評価損益(億円) ▲576

ヘッジ後(億円) ▲205

外債合算 2023年12末

残高(億円) 7,042

利鞘(%) +0%程度

評価損益(億円) ▲232

ヘッジ後(億円) ▲100

低利回りのユーロ固定債は全て売却

- 外貨金利上昇の影響についてご説明します。
- 前回のラージでご説明した通り、第3四半期に、政策投資株の売却益計上に合わせて、低利回りの外貨の固定債を中心に売却し、外債全体の利鞘はプラスに転じております。
- 続きまして、円金利上昇の影響についてご説明します。19ページをご覧ください。

円金利の上昇局面におけるアップサイドの取り込みへ

日銀がマイナス金利を解除した場合の資金利益増加見込額

対象資産	基準レート	資金利益増加額	ROEへの影響
市場連動貸出	①TIBOR	年 +25億円	+0.15%

前提条件 ■ マイナス金利解除に伴い、TIBORの10bp上昇を見込む

今後の長期金利10bp上昇毎の26/3期 資金利益増加見込額

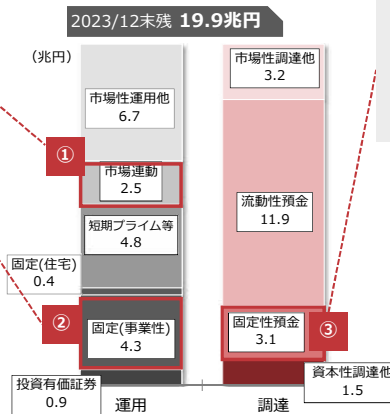
対象資産	基準レート	資金利益増加額	ROEへの影響
固定金利貸出	②スワップレート	26/3期 +8億円	+0.05%

前提条件 ■ いずれも、金利上昇に対する追従率を約6割と想定
 ■ 過去のイールドカーブ変動実績に基づき、年限毎に上昇幅を調整 (10年+10bp、5年+6bp、3年+4bp)

市場性運用からの振替

- 市場性調達を削減し、日銀当預残高を徐々に圧縮させる方針
- 当預残高から5年国債投資へ振り替えた場合、**1,000億円につき4億円**の資金利益増加を見込む (購入利回り0.4%と仮定) (ROE : +0.02%)

円貨 運用・調達構造



定期預金金利引上げ

定期預金金利の上昇により、**0.5億円**の支払利息増加を見込む (ROE : ▲0.00%)

2023年11月13日より引上げ	期間	変更前	変更後
	5年	0.002%	0.07%
10年	0.002%	0.2%	

本シミュレーションで試算対象外とした項目

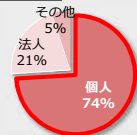
- 短期プライムレート連動貸出
- 投資有価証券 (投資計画の変更により、当初計画との比較が困難なため)
- 流動性預金

預金の粘着性

粘着性の高い個人預金を中心とした安定的な調達構造

- 金利上昇局面における優位性に
- クロスコース拡大・メイン化による粘着性の更なる向上

預金構成



- 今後の金利上昇が国内の預貸金利息に与える影響の試算です。
- 金融政策は日銀の専管事項となりますが、左上、仮にマイナス金利が解除された場合、市場連動貸出金利の上昇により、資金利益は25億円改善すると見込んでいます。また、その下、長期金利が10bp上昇する毎に、固定金利貸出の資金利益は8億円改善すると見込んでいます。
- 右下、当行の預金は粘着性の高い個人預金が74%を占めており、安定的な調達構造を有しております。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459

Fax: 043-242-9121

E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。